＜認知症対応型共同生活介護用＞

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
Ⅰ．理念に基づく運営	11
1．理念の共有	2
2．地域との支えあい	1
3．理念を実践するための制度の理解と活用	3
4．理念を実践するための体制	3
5．人材の育成と支援	2
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1．一人ひとりの把握	1
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3．多機能性を活かした柔軟な支援	1
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1．その人らしい暮らしの支援	9
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2170103697
法人名	有限会社マイハウス
事業所名	グループホーム　マイハウスすが
訪問調査日	平成21年2月18日
評価確定日	平成21年4月23日
評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

［取り組みの事実］

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

［取り組みを期待したい項目］

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

［取り組みを期待したい内容］

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家　族 ＝家族に限定しています。

運営者 ＝事業所の経営･運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム ＝管理者･職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日　平成21年3月20日

【評価実施概要】

事業所番号	2170103697
法人名	有限会社マイハウス
事業所名	グループホーム　マイハウスすが
所在地 (電話番号)	岐阜市須賀3丁目17－5 (電　話) 058-275-4163

評価機関名	特定非営利活動法人　中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	名古屋市昭和区鶴舞3丁目8番10号		
訪問調査日	平成21年2月18日	評価確定日	平成21年4月23日

【情報提供票より】(平成21年1月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年5月11日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計　18　人
職員数	15　人	常勤　10 人, 非常勤 5 人, 常勤換算　12 人

(2) 建物概要

建物構造	木造　造り
	2 階建ての　1 階 ～　2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	30,000　円		その他の経費 (月額)	23,000　円
敷　金	有 (　円)		(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有)(300,000 円) 無		有りの場合 償却の有無	有／(無)
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　1,350　円			

(4) 利用者の概要 (1月24日現在)

利用者人数		18 名	男性　2 名	女性	16 名
要介護1		5　名	要介護2	7	名
要介護3		4　名	要介護4	1	名
要介護5		1　名	要支援2	0	名
年齢	平均	83.2 歳	最低　66 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山田病院、小牧内科クリニック

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設より3年を経たホームであるが、印象的なのは職員同志の会話が多いことである。ホームの中では、職員の笑い声や、楽しく話す光景があちこちで見られた。その結果として明るい雰囲気が作り出され、利用者も話の輪の中に入ることで活気のある毎日を送っている。利用者の行動を心配するあまり、職員が利用者の後をついて回るような、与える介護になることもなく、利用者が自分の意志で動いている様子が確認できた。法人代表は職員を大切に思い、一人ひとりを大切に育てていきたいという思いを持っている。職員は法人代表の思いを受け止めて、利用者の明るく楽しい暮らしづくりを支援している。行事やレクレーションに力を入れており、バス旅行や散歩など、趣味・娯楽に多くの時間を割いているのが特徴である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目：外部4)

前回評価での改善課題に積極的に取り組んでいた。見学した他のホームの例を参考にして、家族との関係構築が密になっている。介護計画の作成に家族の出席を必須としたり、通院介助について、家族の協力を得ることとした。

今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目：外部4)

前回までは、自己評価に対する職員の参加が希薄であったが、今回は各ユニットに分かれ、ホーム長が職員全員と話し合い、それをまとめて自己評価票を完成させた。自己評価に参加した職員からは、自己評価や外部評価の制度に対しても前向きな意見が上がっている。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目：外部4, 5, 6)

バス旅行など定期的に行われるイベントと共催の形で運営推進会議が実施されている。会議に出席するメンバーは限定されるが、家族の多くが会議に参加でき、打ち解けた雰囲気の中で意見を交換することができる。しかし、利用者の日常の光景を見せることで、事業所の課題が推進委員にも見えやすくなることも事実である。時には予定のない一日を使って、利用者とともに過ごしながら会議を進めていくことも必要であろう。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目：外部7, 8)

玄関に意見箱を設置して情報収集に努めている。面会時に家族から意見を聞き、ミーティングで検討し改善に努めている。ただし、家族が面会に来なければ、意見箱を設置しても意見が上がることは難しい。家族は自分の悩みは小さなものと捉えて、ホームには相談しない場合もある。アンケートなどを取り入れて家族の意見を収集するなど、より多くの取り組みを期待したい。

重点項目④

日常生活における地域との連携 (関連項目：外部3)

老人会や自治会の行事にはできる限り参加して地域交流に努めている。散歩に出かけた際には、近隣の住民とも世間話ができる顔見知りの関係を作っている。地域住民と連携しての防災訓練 (避難訓練) が早急に実施できるよう、関係各方面と調整していただきたい。

2. 評価結果（詳細）

（ ▭ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自分らしく地域で暮らすことを大切にした理念を作り上げている。設立時には、地域の方への説明会を開き、運営理念や事業所の役割について説明することで理解を得ている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月に一度のユニットミーティングでは、リーダーを中心にして理念を元に実行できることを話し合っている。利用者の自立度が高いことから、理念の実践においても、具体的な取り組みが可能となっている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会や自治会の行事にはできる限り参加して地域交流に努めている。散歩に出かけた際には、近隣の住民とも世間話ができる顔見知りの関係を作っている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価では、一般職員の自己評価への関与が薄く、ユニットのリーダーが自己評価票を作成していた。しかし、今回の評価では全職員と話し合いを行ない決定している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	バス旅行など定期的に行われるイベントと共催の形で運営推進会議が実施されている。会議に出席するメンバーは限定されるが、家族の多くが会議に参加でき、打ち解けた雰囲気の中で意見を交換することができる。	○	利用者の日常の光景を見せることで、事業所の課題が推進委員にも見えやすくなる。時には予定のない一日を使って、利用者とともに過ごしながら会議を進めていくことも必要であろう。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人代表が県のグループホーム連絡協議会の役員をしていることから、市・担当者との関係構築は十分に図られている。		
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者・職員全員参加（都合がつく者のみ）の日帰りバス旅行を実施している。その折々に撮りためた写真を使って、視覚に訴える「マイハウス便り」を作成している。	○	ホームへの訪問が少ない家族は、利用者の生活が見えにくい。ホームだよりを配布するだけではなく、ホームだよりを読んだ感想や日頃の悩みを返信する機会を作ることを提案したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置して情報収集に努めている。面会時に家族から意見を聞き、ミーティングで検討し改善に努めている。	○	家族が面会に来なければ、意見箱を設置しても意見が上がることは難しい。家族は自分の悩みは小さなものと捉えて、ホームには相談しない場合もある。アンケートなどを取り入れて家族の意見を収集するなど、より多くの取り組みを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員を固定配置して顔なじみの関係を作っている。職員の離職は少なく、一度離職しても、また復職する職員がいる。職員のチームワークと法人代表の温かい心が、職員の定着率を高くしている。		
5．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員参加の事業所内研修を行っている。外部研修や講演会に参加できる機会を多く作っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入して、学習会・交流会へ参加している。交流しているグループホームがあり、外出時に立ち寄るなどの行き来がある。管理者レベルでの同業者交流はあるが、一般職員や臨時職員レベルでの交流は行われていない。	○	管理者は外に出かける機会もあるために、他の職員より同業者と交流する機会はできる。正職員・臨時職員は仕事の中で、他のホームとやり取りする機会がないため、孤立した考え方になりがちであろう。法人代表の幅広い人脈をも視野に含め、今後のアプローチを期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族・利用者が直接見学に訪れることで、本人が納得して入居できるように配慮している。見学訪問の際には、職員も利用希望者の様子を詳細にチェックしている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、介護してあげているという気持ちではなく、一緒に暮らしている自分の祖父母のように接している。時代劇を見て一緒に笑ったり、歌を唄って楽しむ。人間同士の付き合いを行っているために、利用者は居室に引きこもることなく毎日を過ごしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で、職員は利用者の何気ない言葉・ふとした表情から思いをくみ取っている。不穏な利用者へは、観察して本人が今抱えている悩みに向き合うようにしている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者のホームでの生活やケア内容を家族に理解してもらうことが、ホームと家族の信頼関係につながると考え、3ヶ月に1度家族面談を行っている。その人らしく毎日が暮らせるように、利用者・家族から意見を取り入れて介護計画の作成に努めている。	○	緊急性の高い利用開始の場合には、初回の介護計画作成のための詳細なアセスを実施できないことがある。利用開始後に経過観察（アセス）を実施することとなるが、介護計画が空白の状態とならないよう、初回に限り、汎用性の高い（誰にでも適用できる）暫定的な介護計画を用意しておくことも一考であろう。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	前回評価での要改善指摘を受け、介護計画の見直しには家族を参加させることとした。遠距離に居住する家族への対応で課題は残るが、大きな改善となっている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3．多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	お墓参りなど、外出支援や家族が困難な場合の通院介助を行っている。医療行為の発生や、介護度の進行によってホームの利用基準から外れた利用者への対応として、次の受け入れ先を探す等の調整している。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の往診が2週に1度あり、急変が起こった場合には常時相談できる体制となっている。家族が利用者と関わる時間を増やし、家族とともに支えていきたいという方針から、今年度より、通院介助には家族の協力を得ることとしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	基本的には、ホームでの看取りはしない方針を持っている。契約時から終末期に対する方針を本人や家族と話し合い、ホームの方針を説明している。また、重度化する兆候が現れた時には、再度本人や家族意向を考慮し、早い段階から対応して家族の不安を和らげる努力をしている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1．その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に不適切な言葉かけがないように、勉強会を開いて職員意識の向上に努めている。日々の生活の中では、利用者との馴染みの関係が、利用者のプライバシーに配慮を欠く“馴れ合い”にならないよう、管理者が注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れは決まっているが、時間を決めて行動するような暮らしぶりではない。職員は、忙しくても時間に追われているような雰囲気は出さないようにふるまっており、利用者とともに暮らしている雰囲気が感じられる。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材が届く曜日には、届いた食材を利用者が新聞紙に包み冷蔵庫にしまう光景を見ることができる。会話も弾み、自分も手伝っているという実感を持つことができる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室を暖房で温かくし、心地よく入浴できるよう配慮している。利用者に一人づつ声かけして、臨機応変な対応を心掛けている。入浴時間は午後からと決まっており、夕食後に入浴習慣のあった利用者についての対応はない。	○	生きてきた環境、生活スタイルは人それぞれ異なる。一人ひとりのこれまでの入浴方法を再確認して、可能であれば本人が満足する入浴スタイルを支援いただきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	月に一度、ホーム全体で日帰りバス旅行に出かけるのが年中行事となっている。利用者のほとんどがこの小旅行を心待ちにしており、「旅行に行くためには元気でいなくてはいけない」との思いを持ち、毎日張りのある生活を送っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩タイムを作り、なるべく外の空気を吸うように心がけている。時には散歩だけではなく、ドライブや喫茶店に出かけて楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム前の道路は交通量が多いために、やむを得ず鍵をかけている。また、2ユニットが同じ棟であるが不穏な方が混乱してしまうなどの理由から、両ユニットの入口を施錠している。	○	同じ棟に暮らしているのであれば、交流できる機会が多くなりホーム内での近所つきあいをすることができる。時間を決めて解放し、職員が橋渡しして近所つきあいを徐々に深めていくことを期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	全体避難訓練を年に1度行っている。参加者は職員と利用者で地域の参加はない。職員は災害時には地域の手助けが必要だと感じている。	○	昨今のマスコミ報道にもあるように、大勢の人数を少人数の職員で連れ出すことは困難である。普段はしっかりした利用者が、とっさにパニックに陥ることも考えられる。地域の避難訓練などに参加して、いざとなった時の温かい協力体制の構築を期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容・摂取量を毎食記録に残し、一人ひとりの摂取量を職員間で情報交換、把握している。夏場は自由にお茶を飲むことができるように、お茶ポットを置いたり、水分補給をジュースやコーヒーで補うなど、より多く摂取できるよう努めている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の壁や天井には、利用者が協力して作ったお手製の飾りが沢山飾ってあり、楽しい雰囲気が作り出されている。また、バス旅行などホームでの出来事を写真で飾り、今いる場所が安全で安らげる場所としての認識を持てる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた使い慣れた家具や道具を、ホームでも変わらず使うことで家庭的な居心地良い空間を作り出している。利用者は、家族の写真や思い出の写真を居室の壁に貼り付けて大切に眺めている。		